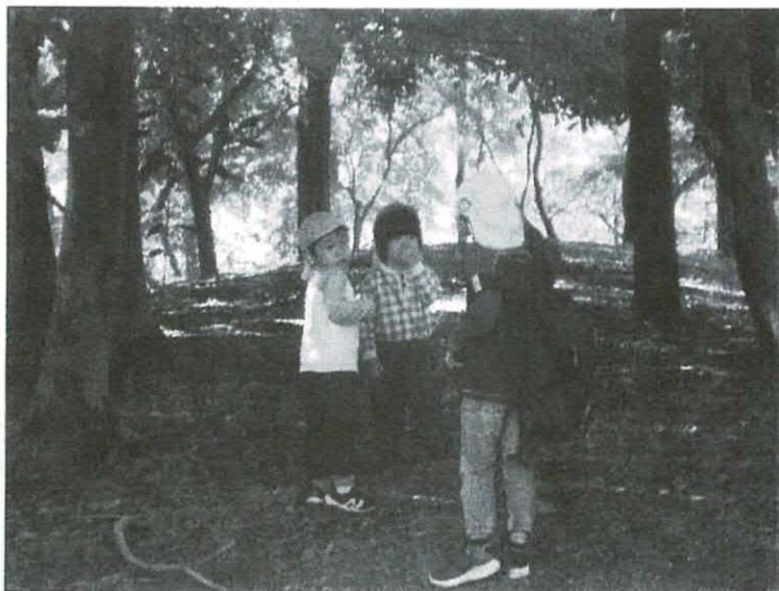


「自己発揮しながら調整する」



出典：久保健太「主体性が湧き出ちゃう保育：自分で自分を育てていく（その3）」第6回（「保育通信」2025年8月号, No.843, p14）

- ・この場面でかなた君はどんなことを感じ、何を考えていたと思いますか？
- ・この場面で、子どもたちにはどんな主体性が働いていますか？
- ・最近、子どもたちが「自己発揮しながら調整」していた場面はありましたか？

「さっきよりも優しく、柔らかく」

ある日、2歳児クラス（ピンク色の帽子）と5歳児クラス（黄色の帽子）で合同散歩に行きました。2、3、4、5歳児の縦割りでハロウィン散歩をしたことはありますが、2クラスで散歩に行くのは初めてでした。基本的に5歳児は2歳児と手をつなぐことにしていたため、ほとんどの5歳児は2歳児と手をつなぎ、公園に向かいました。

しばらく公園で虫探しや自然物集めをして、帰る時間になりました。保育者から「そろそろ帰るから、来た時につないでいた子と手をつないで並んでね」と声がかかりました。

5歳児クラスの子は手をつないでいた2歳児クラスの子に「手をつないで帰ろう」と声をかけに行っています。かなた君（黄色の帽子）も手をつないでいたはやて君（ピンク色の帽子を被った子の右側）に声をかけに行きました。

「手をつないで帰ろう！」

でも、はやて君はまだ遊びたい気持ち。なかなか手をつないでくれません。「先生～、はやて君、ぜんぜん手つないでくれないんだよ～」と、かなた君から声をかけられました。

「どうやったら手をつないでくれるかな」

「え～、わからないよ」

「どんなふうに声をかけられたら、はやて君は手をつなぎたくなるかな？」

かなた君は、私とそんなやりとりをした後、少し考えて、再びはやて君に話しかけに行きました。かなた君の様子を見守っていると、はやて君の背中に手を当てながら「そろそろご飯の時間になるし、帰ろうよ」と声をかけていました。さっきよりも優しく、柔らかく声をかけていました。でも、まだまだ遊びたいはやて君。首を横に振ります。かなた君はまた違う言い方で声をかけます。「見て、みんな並び始めたよ。一緒に手をつないで帰ろうか」。すると、はやて君の気持ちが動き、かなた君と手をつないで列に並び始めました。はやて君と手をつなぐことができたかなた君の表情は、なんだか達成感を感じているようでした。

普段、年下の子に自ら関わりに行くタイプではないかなた君。年下の子への関わり方、声のかけ方を試行錯誤しながら、自分なりの関わり方をこれからも学んでいくのかなと思いました。かなた君の今後の年下の子への関わり方にどんな変化があるのか楽しみです。